

四世川柳の墓②

(白金・最上寺)

<制作> ©朱雀洞文庫
尾藤 一泉
東京都北区栄町 38-2
TEL : 03-3913-0075
issen@doctor-senryu.com

四世川柳は、柄井家をはじめて離れた川柳号嗣号者。安永7年9月江戸に生まれ、南町奉行・筒井伊賀守二番組与力支配下の物書同心。はじめ大塚に住み、文日堂礪川の折角速にあったが、文日堂の前句復帰とともに二世川柳門で眠亭賤丸と号し、文化3年の『俳風柳多留』35篇に初出。以後頭角を現し、文政7年、四世川柳を嗣号。その社会的交流の広さから川柳界に江戸の文化人も多く集め、川柳を中興。それまで、定まった名称が無かった川柳に、(俳風狂句)と命名。天保15年2月5日没。崇徳院仁興普山居士。赤坂の法安寺に葬られる。



浄土宗・最上寺



最上寺周辺地図



型絵染人間国宝・芹澤銈介墓



今は無縁となっている小日向・林泉寺の八世川柳之墓も、昭和3年高木角恋坊が建立。



小日向・林泉寺の八世川柳の墓と同じ千体地蔵の一。



無縁墓地の台上右脇前列に「四世川柳之墓」と刻された地蔵尊像が安置されている。

四世川柳こと人見周助の墓所は、はじめ赤坂の法安寺に周助の手で建立され、代々の名を墓石に刻んでいるが、明治23年4月に三田・薬王寺に改葬され、現在も血族により守られている。

最上寺のこの墓石は、四世川柳之墓所が無いと勘違いした角恋坊が、一説に言われた四世菩提寺が最上寺であるという誤謬により建立されたもの。しかし、歴代川柳の墓所を確認し、川柳史跡として位置付け、川柳を社会に広めようとした角恋坊の一途さがうかがえる。



四世 風梳庵川柳



三田・薬王寺の四世墓所